



○ August

8月になりました。学生たちは一応形の上では夏休みです。しかし、子ども学科の1年生は今週集中講義と各種試験がめいっぱいあります。がんばれ！ITビジネス学科の2年生はPBLの真っ最中で仕事に取り組んでいます。子ども学科2年生は保育・施設実習(各2週間)がそれぞれの日程で行われます。職業訓練の医療事務科では、いよいよ現場実習が始まります。皆忙しい夏です。

8月はお盆もあります。久しぶりに家族と出会うという人もいることでしょう。宗教的な話をするわけではありませんが、お盆には先祖のことや自分が今生きているということを私は考えます。人はいずれ死にますが、すべてが無になるわけではありませんね。法事などで日頃出会えない人たちが集まるのは亡くなった方がそうさせてくれているのだと私は思います。お盆も年に一度の再会という場面をよく見かけます。

自分の先祖でいうと直接ふれ合うことができたのは祖父母までです。曾祖父母は写真でしか分かりません。自分にとっての祖父母は四人です。曾祖父母は八人になります。四代前になると十六人になります。五代前は三十二人にもなります。これは誰にとってもそうですよね。こういうことを考えていると今の自分の存在が非常に貴重な(大切な)ものに思えてきます。また、それぞれの先祖にもそれぞれの人生があり、いろいろな苦勞や喜びを味わいながら生きていったことだろうということも想像します。

私自身の人生もすでに後半になっていますが、これまでいろいろなことがありました。これからもいろいろなことがあるでしょう。喜び・楽しみ・悩み・苦しみの大勢の先祖のことを思っていると、今自分が悩んでいること苦しんでいることも少し軽くなるような気がします。皆さんはいかがでしょう？前回までもときどき記述しましたが、私が本校に着任してからそれまでとは違った面白さを味わい続けています。これからも前向きな考え方でいろいろなことや人と出会っていきたくて考えています。

さて、学生たちのことに戻ります。自分の一生は一つしかありません。そのようなことも関係して、2年生は約半年後の就職に向けて悩み、迷い、不安を募らせているときだと思えます。その心理状態は痛いほど理解できます。しかし複数の職場に同時に勤めることはできません。(ひょっとして情報化社会がもっと進展していったらそれも可能になるのでしょうか？今はなかなかできませんが、)決断は迷うことだと思えますが、これと決めたらその道に前向きに取り組む気持ちの持ち方が大切であろうと思えます。

たった一つの人生しか歩んでいけない私の浅い経験を振り返ってみて思うことがあります。困難な壁にぶち当たってどうしようもないときは何回かありますが、これまでなぜか解決へのよい方法が見つかったり手助けをしてくれる人やものが現れたように思います。壁をよじ登るロープがもたらえたり、壁の下を掘るためのスコップ(シャベルとの区別は明記できないようです。)が見つかったり、誰かが通り抜けるドアを作ってくれたり、肩車で乗り越える手助けをしてくれたり…と。

2年生の皆さん、今のうちにしっかり悩んでおきましょう。

自校自賛 きらり

本校には毎週火曜日 10:30~11:30 に幼児と保護者が集まり、遊んだり歌ったり踊ったりしながら交流する“きらり”の広場があります。保護者同士の情報交換や学生が子どもたちとふれあう場ともなっています。



終わったあとの広場